

手づくりおもちゃであそぼう！

石 田 浩 子

1 子どもも大人もつくってあそぶ楽しさを



図1 とんとんずもう

牛乳パック、ペットボトル、紙コップ、段ボール、ラップの芯、空き箱、新聞紙等、家の中には手づくりおもちゃの材料となる宝物がたくさんあります。そんな身近にある宝物（材料）で、遊びに使うものを工夫して作ったり、遊び方を考えたり、実際に遊んだりすることを通して、子ども達は体験的に様々なことを学んでいます。

例えば、最強のとんとんずもうの力士を作るために、どんな材料を使ってどんな力士を作れば良いか、自分なりに考え、どんどんバージョンアップさせていきます。完成したときの達成感も格別ですが、その過程も子ども達にとっては楽しそうです。そして、その過程で多くの発見をします。「折り紙より牛乳パックみたいな厚い紙で作った方がよい。」「脚が短いとすぐ倒れるから長く太くしよう。」等、発見したことはだれかに報告したくなります。そんなとき、周りから認められたり、褒められたりすると、子ども達はうれしさいっぱいになることでしょう。そこで、今回は、作り方が簡単で、自分なりのアレンジ（工夫）ができ、大人も夢中になれるかもしれない手づくりおもちゃを紹介することにします。

2 ぶんぶんごま

(1) ぶんぶんごまの作り方

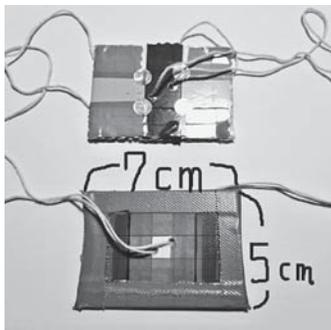


図2 ぶんぶんごま

ぶんぶんごまは、名前の通り、「ブーンブーン」「ビュンビュン」と音を出しながら回るおもちゃです。音だけでなくひもが伸びたり縮んだりする感覚もおもしろいです。江戸時代には「松風こま」と呼ばれていたそうです。ずっと日本だけに伝わるおもちゃと思っていたのですが、姫路市にある日本玩具博物館のホームページには、ぶんぶんごまは古代ギリシャの時代から存在していたと書かれていました。

作り方はとても簡単で、正方形、長方形、円形等いろいろな形の中央辺りに2か所穴を開けて、そこにひもを通して結んだら出来上がりです。私が子どもの頃には、ボタンにひもを通して、ぶんぶんごまにしていました。

作り方は簡単ですが、回し方にコツが必要で、子ども達も最初はなかなか「ブーンブーン」と音が鳴らなくて苦労します。ひもを緩めるタイミングと引っ張るタイミングが合わないのです。それでも、回せる子どもが出てくると、そのコツが伝授され、多くの子ども達がだんだんと回せるようになっていきます。この過程でもいろいろな発見があります。

表1 ぶんぶんごまで遊ぶ中での発見

- ・長方形のこまなのに、回すと丸く見えるね。
- ・回すと模様が見えたり、色が変わって見えたりするよ。
- ・ひもが長すぎると回しにくいよ。
- ・工作用紙を5枚くらい重ねた方が良く回るよ。重い方がよいのかな。
- ・丸い形でもできるよ。
- ・回るスピードがゆっくりになって、ぶんぶんごまの模様が見えてきたらひもをひっぱるといいよ。

(2) ぶんぶんごまをアレンジしよう。

上記の基本のぶんぶんごまが上手に回せるようになったら、ぜひ、自分なりのアレンジを加えて、オリジナルのぶんぶんごまづくりにチャレンジしてみてください。表2のアレンジポイントを参考にして、作りながら思いつくまま試していくのがよいと思います。あれこれ試していくうちに、思わぬ発見があるかもしれません。回る音の違いも感じることもできるかもしれませんね。シンプルだからこそ、いろいろなアレンジができる手づくりおもちゃです。

3 ぱっちゃんガエル

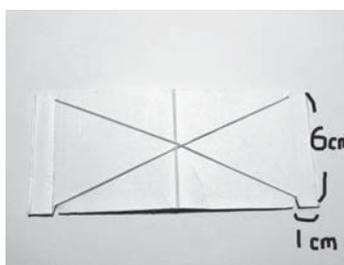


図3 ぱっちゃんガエル

表2 ぶんぶんごまのアレンジポイント

- ① こまの大きさや形を変える。
- ② 使う材料を変える。
- ③ こまの厚さを変える。
- ④ こまの模様や色を変える。
- ⑤ 穴の位置を変える。
- ⑥ ひもの長さを変える。
- ⑦ 二人で1つの大きなこまを回す。
- ⑧ 一人で2個回したり、友達と一緒に片方ずつ持ち合って回したりする。

ぱっちゃんガエルは、ゴムの縮もうとする力を利用して遊ぶおもちゃです。牛乳パックに輪ゴムをかけて、机の上などに広げて置くと、「パチーン」と音をさせながら飛び上がります。牛乳パックの内側にカエルやウサギなどの絵を描いたり、折り紙を切って貼ったりするとより楽しくなります。紙面の都合上、詳しい説明は省きますが、ぱっちゃんガエルをより高く飛ばすためには、ゴムのかけ方、本数等をアレンジするとよいですよ。また、形や材料を変えて、オリジナルぱっちゃんを作るのもよいですね。ちょっとした時間でできるおもちゃです。ぜひ、ご家族で楽しんでください。

あきのおたからで つくったよ！！

埜 本 美 紀

1 秋の素材を使った遊びを紹介

1年生の自然を使った学習「秋みつけ」では、身の回りにある秋を見つけて、その秋の素材（子ども達はこれを「あきのおたから」と言っていました。）を使って色々な遊びを楽しみました。「秋みつけ」の場所は、①学校内②湊崎公園（仁保橋付近）③猿猴川の河川敷（中学校の校舎の近辺）の3カ所です。はじめのうちは、葉っぱやどんぐり、木の実などを見つけることに必死でした。しかし、ある程度拾ったり、友達と見せ合ったりしているうちに、「ねえねえ、〇〇ちゃん、〇〇くん、これやってみよう！！」や「あっ！そうだ！！」と子ども達の中から遊びが生まれていく瞬間がたくさんありました。今回は、子ども達の遊びや「あきのおたから」を使ったおもちゃ等について、いくつか紹介します。

(1) 学校内でのあそび



図1 葉っぱの富士山

「集めたら葉っぱのミニ富士山みたいだね。」「葉っぱの玉入れみたいで楽しい！！」「葉っぱが当たって“クシュクシュ”って聞こえたよ。」など、さまざまな気付きを出しながら、思いっきり楽しみました。



図2 葉っぱの玉入れ

(2) 湊崎公園でのあそび



図3 葉っぱのお花

葉っぱをたくさん集めて「花」を作りました。「葉っぱは何枚あるのでしょうか？」と当てっこゲームに発展しました。

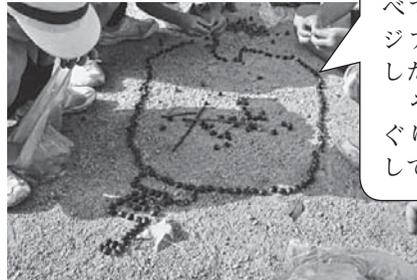


図4 どんぐり野球

どんぐりを並べてマツダスタジアムができました。その後、どんぐり野球に発展していました。



どんぐり帽子を見つけると指にはめてみたくなるみたいです。顔を書いたら出来上がり！！

図5 どんぐり指人形



どんぐりを葉っぱで包んで飛ばす遊びから発展した『どんぐり飛ばしゲーム』。
ネットに挟んだ葉っぱに、どんぐりが当たったら100点だよ。

図6 どんぐり飛ばしゲーム

(3) 秋のおたからで作ったおもちゃ



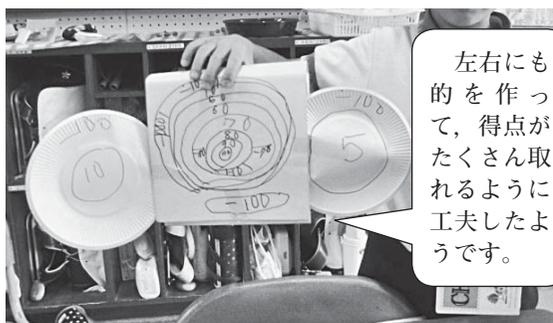
どんぐりと半分に折った紙皿で作りました。ゆらゆらと動くところがポイントです。

図7 どんぐりゆらゆら



的あてゲームを工夫して作った『どんぐり投げゲーム』。
得点が高い紙コップに入った方が勝ちのようです。

図8 どんぐり投げゲーム



左右にも的を作って、得点がたくさん取れるように工夫したようです。

図9 どんぐり的あてゲーム



図10 どんぐりけん玉

一番多かったのは、どんぐりゴマでした。穴を開ける時に割れないようにゆっくり開けるのがコツです。



図11 どんぐりごま

2 「秋みつけ」を通して

子ども達の様子を観察して見ていると、最初は、なかなか遊びも思いつかず、ひたすら拾うばかりでした。しかし、「どんな遊びができそうかな。」「こんな材料あるんだけど…。」等と声をこっそりかけてみると、子ども達は、「そうだ！！」とそれぞれが思いついた遊びに夢中になっていました。遊びを思い付くと、友達にも教えたいという思いも膨らみ、別々の遊びをしていたはずの子ども達が集まって、さらに遊びが発展していました。今回紹介した遊びは、ほんの一部です。子ども達は、どんどん秋のおたからを使った遊びを思い付いていました。子ども達の力は、計り知れません。ぜひ一度、子ども目線で一緒に「秋みつけ」をして新たな発見を見つけてみてはいかがでしょうか。



図12 どんぐりケーキ